

鷲見氏関連史跡の視察報告！

令和2年6月4日、岐阜県博物館で開催されていた「たかす開拓記念館展」へ研修に行き、以来久しぶりの高鷲文化財保護協会の研修であった。それ以降、コロナ蔓延により研修を開催することはできなかったが、今回（令和4年3月27日）、高鷲振興事務所のお車を借り、本格研修を行うことができました。

前日までの雨も止み、快晴の研修日和で、参加者は会員6人と運転手をお願いしました高鷲町民センターの舞箴さんの7名でした。車中では鷲見会長の挨拶と「鷲見氏と神社寺院」と題して説明があり、会員が互いに鷲見氏のことについて語り合った。つまり、会員全員が文化財保護協会の会員であると共に「たかす鷲見氏の会」（仮称）の準備委員である。以下見学箇所の簡単な説明と、写真を掲載します。

三輪神社 岐阜市三輪の神社で、祭神は大国主命。鎌倉時代には山県氏が当社を井水神社とし、次いで室町時代は鷲見氏、近松氏の諸豪族や、歴代岐阜城主の崇敬も厚かった。江戸時代は美濃郡代が祭礼（市文化財）に幣帛を献じ、警護した。なお、鳥居の前には三輪用水（現山縣用水）が流れている。



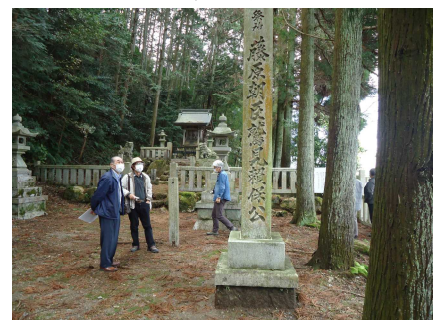
三輪神社全景

大智寺 山県市北野にある臨済宗妙心寺派の大智寺は鎌倉時代に創建され、戦国時代には一時衰退するが、北野城主鷲見美作守保重によって再考され鷲見家の菩提寺となった。永正7(1510)年守護代斎藤利良との戦いで、保重はこの大智寺で13名の侍臣と共に自刃し、北野の鷲見城を中心に権勢を誇った一族も分散したが、その後4代まで続いた。なお、大智寺には鷲見美作守保重の墓があるが、今回の研修では発見できなかった。また門前には各務支孝の住家である獅子庵がある。



大智寺本堂

鷲見神社 山県市高富森にある鷲見神社は、文明10年鷲見保重は郡上から北野城に進出し、永正7年に斎藤利良との戦いで自刃したが、その子保定は弟たち及び母を伴い高富に逃れ、一門再興祈願のために衣笠大権現を勧請し一族の守護神とした。昭和45年に本殿（鷲見神社）が再建造営された。この神社には元村長蓑島政一氏が「祭神 藤原朝臣鷲見頼保公」の標柱が寄進され、また境内には鷲見敏氏や現会長の鷲見尚武氏の名が寄進者として欄干に刻銘してあった。



蓑島政一氏が寄進した鷲見神社標柱

廣巖寺 再起をかけた嫡男の保定は赤尾で討死し、二男直保、三男保光は母（松野）と共に高富に逃れた。松野は高富村で庵を結び先祖の供養をした。大永8(1528)年に母松野が逝去したので、この地に葬り、禅宗の寺を建立し「廣巖庵」とした。その後二男直保が改めて淳岩和尚を迎えて「廣巖寺」と呼ぶようになった。なお廣巖寺墓地には保定の五輪塔や鷲見正保墓碑など北野城に係わる鷲見氏関係の墓が多数ある。高富鷲見氏菩提寺。



廣巖寺全景

北野城址 鷲見行保の二男の保重は文明年間に美濃国守護土岐成頼の武将として各地を転戦、武功を上げその論功として山県郡北野に所領を賜り、鷲見城を出て北野城に居城する。第一代北野城主は文明 10 年から永正 7 年の 33 年間続き、**鷲見氏四代（保重・保定・直保・忠保）の 76 年間**続き、弘知 2（1556）年の長良川の合戦（弘知の乱）で斎藤道三が義龍に殺され、その時、北野城も廃城になったが、保光は義龍に付き、稲葉山城におり、永禄 10 年に織田信長が稲葉山に迫ったため稲葉山を龍興と共に出て長嶋に向かった。



現在神社と民家が建つ北野城址

大桑城址 土岐氏の居館は、天文 4（1535）年の長良川の大洪水によって北山・大桑村に移し、城下町を整備して政治・経済の中心地となった。

古城山の大桑城跡に上る道は、麓の健脚コースと「はじかみ林道」で駐車場まで行きそこから登るゆったりコースがある。最初、私たちは麓の健脚コース入り口で大桑城址の概要を説明看板で見ていたところ、弘知の乱で同様に滅ぼされた**鷲見氏と船戸氏の末裔**に会い、その人たちは九州から祖先のことを調べにきたと話していた。さらに私たちははじかみ林道を登り駐車場の側にある縄張り図を見ていると、観光ボランティアガイドの男性が近づいてきて、大桑城のことをいろいろ説明してくれ、私たちからも大桑城の縄張り図について等いろいろな質問をした。おかげで有意義な研修となった。



駐車場横にある説明板と観光ガイド

長山城址 長山城は、通称「権現山」と呼ばれる尾根の上にあり（標高 303m）、美濃守護の土岐成頼（長山四郎）の四男の居城と言われている。敵の侵入を防止するために削った堀切った郭等があり、15 世紀後半の城郭構造の特徴を残している。東部クリーンセンター横の駐車に車をとめ、城址の登り口を探したが、細い道で草木に覆われ、とても登る気にはなれず、説明看板だけ見て次の研修地に向かった。



長山城址上り口の説明看板

中津屋鷲見氏の墓 国道 156 号線の新しく開通したバイパス横にあるお墓が、鷲見氏の墓でないだろうかと言われている。ここは、天文 10（1541）年東常慶が**阿千葉城主鷲見保照の息子鷲見貞保**を滅ぼさんと企てたため、貞保は息子の正保を牧谷に逃し自害した。後に正保は大島村に帰り帰農したが、保照の時代に中津屋に居館があり、そこから阿千葉城に通っていたという話から、中津屋の鷲見氏の末裔が墓を守っているという。



中津屋の鷲見氏の墓でないかと言われている五輪塔

参加者集合写真

鷲見神社の蓑島政一氏
寄贈の鷲見頼安公の顕彰碑
の前で記念撮影

左から
水上精榮

馬淵旻修
鷲見尚武
上村文隆
川尻 齊
平井道則

写真撮影者 舞箴 氏

